

ハローキャリアワーク通信



11月16日に、株式会社友成工芸から依頼のあった「コロナ禍で使用した『アクリル板』をアップサイクルして、素敵な製品を作りませんか？」のハローキャリアワークの1回目が友成工芸の工房で行われました。小学5年生から中学3年生の参加者5名全員が集まり、事業推進担当課の担当者からの諸注意な

どの後に、代表取締役の友成富美さんから、友成工芸の会社のコンセプトや今回の参加者への依頼について話がありました。



その後友成さんから、参加者へ今回の応募動機を聞かれ次のような答えがありました。「面白そうで、作ることが好きなので」「小学校で使っていたアクリル板のパーティションに絵をかいていたので」「ものづくりが好きで、木工を自分でもやっているの」「親が加工所をやっていて、興味があつた」など様々な動

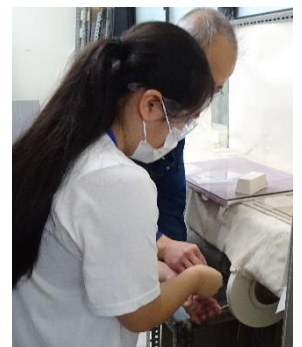
機がありましたが、「ものづくり」への関心が強いように感じました。

いよいよ具体的な依頼事項を説明してくださいました。今回は、「コロナ禍で使用して、使われなくなったアクリル板をアップサイクルして、小学校低学年向けに『工作キット』を作り販売したい。いろいろなアイデアを出して、商品を作ってほしい。そのために今日は、アクリル加工を知る必要があるの、体験して、



覚えてください。」と話され、その後それぞれの工程を体験しました。初めは、使っていた衝立を切り出してくださいました。刃物がついている切断機にアクリル板をセットし、上から刃が下りて切断されました。その際、切断機にスイッチ（足で踏む）に触れる体験もさせていただきました。そして、100mm四方の板にする機械にセットして、一度に10枚以上切断され、正方形のアクリル板の面取りをセラミックでできたカッターのような工具で行ったり、布状のものを合わせた研磨機で研磨を

して仕上げました。また、接着剤でアクリル板を張り付ける様子も見学しました。その後、側面に彫刻する作業で、手作業（汎用彫刻機）を体験させていただき、大小の拡大された図を右手でなぞり、左手で刃物をアクリル板の側面に当て、映し描くように彫り上げていく体験もさせていただきました。誰もが見事に作り上げました。無言で集中している姿は、職人の卵のようでした。技術指導をしてくださった大知里さんからは「将来友成工芸で働いてほしいな」と声もかけられていました。この手作業の彫刻機と同じことを最近では「レーザー彫刻機」で行っているということで、その様子も見学させていただきました。レーザ





ー彫刻機での出来栄は、どの模様も深みは同じなのですが、手作業の機械で行うと、深みを異なるようにもできるとのことです。比べてみる子もいました。さらにUV インクジェットプリンターでは、色付けもできるとのことです、その様子も見させていただきました。その後、作った形に色を入れ今日の仕上げになりました。さらに色が乾く間に、細長い切り残ったアクリル版を、熱伝導の機械を使って直角に曲げる技の体験もさせていただきました、肘あてのような形のものも作らせていただきました。集中して黙々と作業している時間がたつのは早いもので、作業している3時間程度の時間になりました。



たが、まだ続けようとしていました。最後に振り返りシートに記入して、次回は24日で、デザイナーの方も見えるとのことで、その内容を聞いたり友成社長から今日の感想を聞かれたりして、終わりました。

